

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2010年6月)

発表日2010年8月19日(木)

～改善傾向は継続～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
09	1-3月	▲6.3	▲11.1	▲3.1	▲6.6	▲20.0	▲34.6	0.2	▲0.3	▲0.5	▲1.1		
	4-6月	1.1	▲9.3	▲0.6	▲6.1	6.5	▲27.4	▲0.2	▲0.1	▲2.0	0.1		
	7-9月	1.1	▲7.0	0.6	▲4.7	5.3	▲19.4	0.1	0.7	▲6.2	▲6.4		
	10-12月	0.1	▲3.7	▲0.3	▲3.4	5.9	▲4.3	0.0	0.1	▲5.3	▲13.5		
10	1-3月	1.4	3.7	1.1	0.7	7.0	27.5	▲0.8	▲0.8	0.7	▲12.2		
	4-6月	0.8	3.4	▲0.2	1.3	1.5	21.0	▲0.4	▲1.2	▲0.5	▲11.1		
09	1月	▲1.3	▲9.0	▲0.1	▲4.5	▲8.4	▲30.9	▲0.2	▲1.0	▲0.7	▲1.5		
	2月	▲3.7	▲12.5	▲0.7	▲7.4	▲8.6	▲38.6	0.3	0.8	▲0.1	▲1.1		
	3月	▲1.0	▲11.7	▲3.4	▲7.7	2.2	▲33.8	0.2	▲0.8	▲0.5	▲0.9		
	4月	2.4	▲10.0	2.0	▲6.2	4.5	▲31.0	▲0.6	▲0.9	0.2	0.9		
	5月	0.9	▲10.0	▲0.2	▲7.1	4.6	▲29.0	0.5	1.2	▲1.6	1.0		
	6月	0.3	▲7.9	0.2	▲5.1	1.5	▲22.5	▲0.3	▲0.8	▲2.5	▲1.3		
	7月	0.5	▲8.0	0.5	▲5.3	1.1	▲22.3	0.2	0.6	▲2.5	▲3.5		
	8月	0.0	▲6.3	0.2	▲4.1	1.5	▲18.3	▲0.2	0.4	▲1.5	▲6.5		
	9月	0.1	▲6.7	▲0.3	▲4.7	1.8	▲17.5	0.1	1.3	▲1.9	▲8.8		
	10月	0.2	▲6.1	0.2	▲4.4	1.5	▲14.4	▲0.2	0.5	▲1.0	▲10.5		
	11月	▲0.2	▲3.3	▲0.2	▲3.0	2.6	▲2.9	0.2	▲0.5	▲3.6	▲14.5		
	12月	▲0.3	▲1.6	▲0.7	▲2.7	2.6	6.4	0.2	0.3	▲0.4	▲15.3		
10	1月	3.4	1.9	2.9	▲0.1	4.3	18.9	▲1.3	▲0.3	0.7	▲13.9		
	2月	▲2.2	4.2	▲0.5	0.6	▲0.6	31.3	0.5	▲0.6	4.3	▲10.0		
	3月	▲0.6	5.0	▲2.6	1.8	1.2	31.8	0.0	▲1.5	▲4.0	▲13.0		
	4月	1.9	4.0	2.4	1.8	1.3	25.9	▲0.8	▲1.1	▲4.4	▲17.0		
	5月	0.1	3.3	▲0.8	1.2	0.1	20.4	▲0.1	▲1.7	9.2	▲8.1		
	6月	0.1	3.0	▲0.1	0.8	▲1.1	17.3	0.7	▲0.7	▲1.8	▲7.5		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 全産業活動指数：前月比+0.1%

6月の全産業活動指数は前月比+0.1%と、コンセンサス(同:▲0.3%、レンジ:同▲0.8%~+0.5%)を上回る結果となった。輸出や生産の減速などに伴い鉱工業生産指数、第3次産業活動指数などは悪化した一方、公務等活動指数が改善したことなどから、全産業活動指数は3ヶ月連続でプラスとなった。四半期ベースでも、4-6月期は前期比+0.8%と、1-3月期(同+1.4%)に比べ改善ペースは鈍化したものの、5四半期連続のプラスとなっており、全産業活動指数は改善傾向が継続している。

内訳にみると、プラスに寄与した指数は公務等活動指数(前月比寄与度:+0.08%ポイント)、マイナスに寄与した指数は第3次産業活動指数(同:▲0.07%ポイント)、鉱工業生産指数(同:▲0.21%ポイント)、建設業活動指数(同:▲0.08%ポイント)であった。

○ 鉱工業生産指数は4ヶ月ぶりに悪化

個別にみると、鉱工業生産指数は前月比▲1.1%と前月(同+0.1%)から一転してマイナスとなった。国内外での設備投資の持ち直しを背景として一般機械は増加基調が続いているものの、中国を中心としたアジア向け輸出の減速や在庫復元効果の一巡などを受けて、輸送機械や電子部品・デバイスなどが落ち込んだことが影響した。

また、第3次産業活動指数も前月比▲0.1%と2ヶ月連続のマイナスとなった。ソフトウェア受注の減少や生産の減速などによって企業部門の活動が悪化したことなどがマイナスに寄与した。

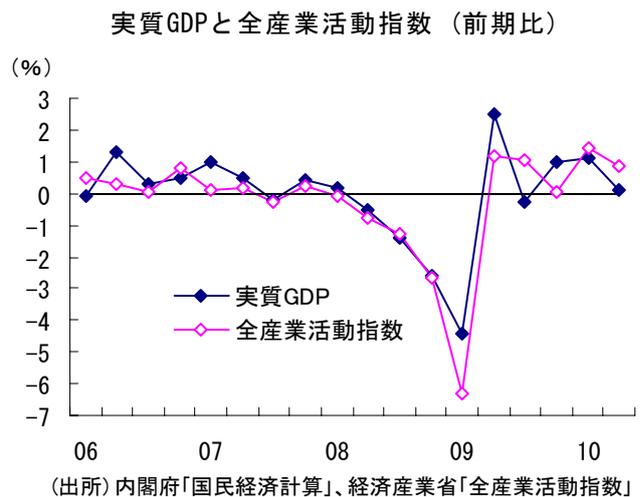
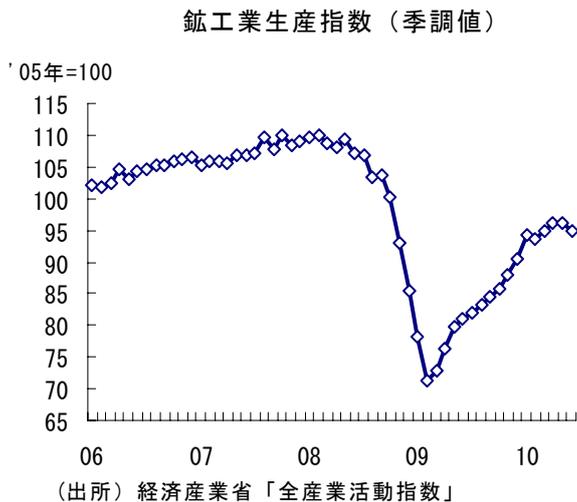
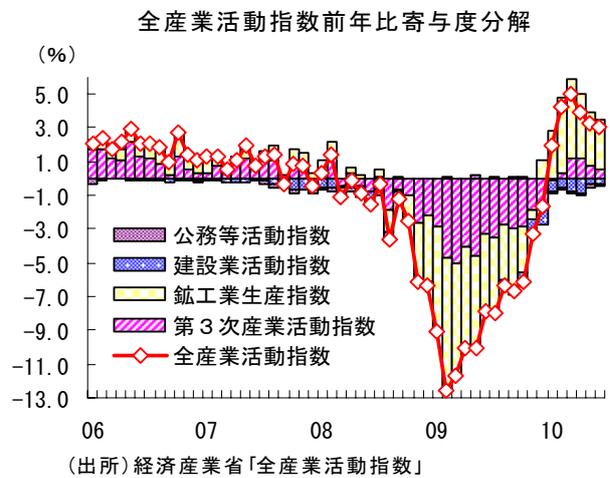
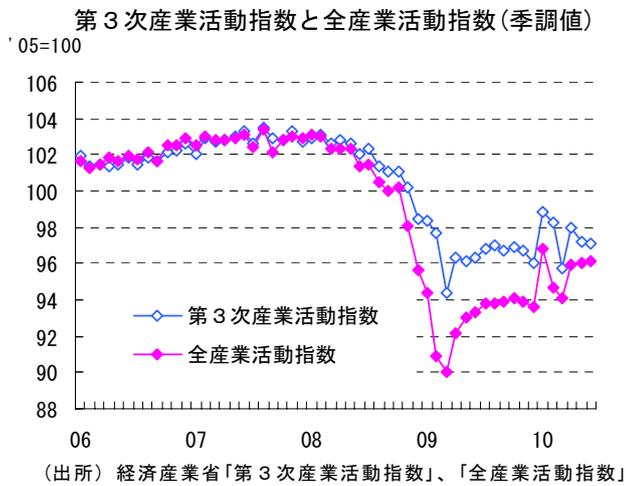
加えて、建設業活動指数も前月比▲1.8%と2ヶ月ぶりにマイナスに転じた。内訳別にみても、公共・建設・土木活動指数が同▲3.5%(前月同+20.4%)、民間・建設・土木活動指数が同▲2.1%(前月同+5.9%)と、共に悪化している。公共投資の減少などが背景にあると考えられる。

○ 先行き景気の減速感が強まる中、改善ペースは鈍化していく可能性が高い

全産業活動指数の先行きを展望すると、鉱工業生産指数は、輸出の減速や政策効果の一巡などを背景に、増産ペースの鈍化が見込まれる。

さらに、第3次産業活動指数も、生産の減速に伴って企業部門は低水準での推移が続くと予想されることに加え、家計部門も、各種所得支援策による消費下支え効果は見込まれるものの、雇用・所得環境の回復は緩やかなものに留まると見込まれる下では、緩慢な動きが続くだろう。そのため、全体では回復力に乏しい動きが継続しよう。

これまで全産業活動指数は、輸出や生産の回復などに伴って順調に改善してきたが、先行き景気の減速感が強まる中、改善ペースは鈍化していく可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。